

# むかし 古く 古い道具と昔の暮らし

さくられきし みんぞくしりょうかん や た べ きょうど しりょうかん  
桜歴史民俗資料館・谷田部郷土資料館



☆ やって みよう むかし 昔の台所のようす  
★ この絵にある道具が資料館にあるよ。いくつ見つかるかな？探してみよう！  
★ 「はがま」や「なべ」のように、見つけたら絵の横に名前を書いてみよう。

さくられきしみんぞくしりょうかん や た べ きょうどしりょうかん れきし むかし く しりょう  
桜歴史民俗資料館と谷田部郷土資料館には、つくばの歴史や昔の暮らしに関する資料が  
あります。どちらの資料館も展示室の入口から向かって左側には、電気やガスなどが広く利用  
される前に使われていた、昔の道具が展示されています。このパンフレットでは、その一部  
を紹介します。パンフレットに描かれた昔の道具がどこに展示してあるか、見つけてみてく  
ださい。また、資料館には、ほかにもたくさんの道具が展示してありますので、何に使われ  
たのか、何という名前なのかなどを見て回ってみましょう。

# 衣

## 着る

昔は、多くの人が洋服ではなく、着物を着ていました。着物は家で作ることが多く、綿などから糸を紡ぎ、糸から布を織って、布から着物を作っていました。着物には、日常に着る「普段着」、農作業をするときの「野良着」、お祭りなどの行事の時に着る「晴れ着」などがありました。

### 糸車 一糸を紡ぐ

糸を作るための道具です。糸の材料には、綿や麻という植物や、蚕がさなぎになる時に作るマユが使われました。糸を作るには、はじめに綿の種を抜いたり、マユを煮たりといった作業が行われます。その後、綿の場合は右の絵のように、左手で綿を持ち、右手で車輪を回し、その力で綿をねじって糸にしていきました。



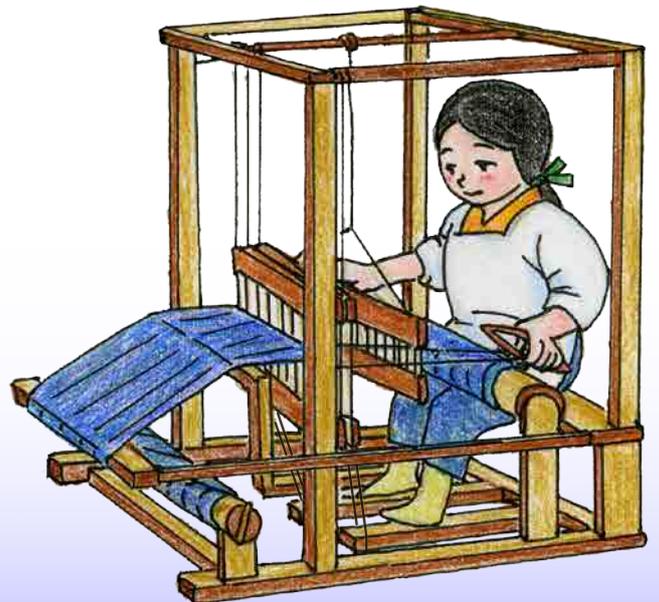
### 藍甕 一糸を染める

糸に色をつける道具です。綿やマユからできる糸は白いため、そのままでは白い着物しか作れません。藍甕という大きな容器に、藍という植物と水を入れて発酵させると、紺色の液体になります。その液体に糸をつけることで、糸を紺色に染めていました。また糸を液体につける回数によって、色の濃さを変えることもできました。



### 機織り機 一布を織る

布を織る道具です。糸は長さをそろえたり、色ごとに並びかえられたりした後、機織り機で布にされました。布は、縦に並べた糸に横糸を通して、糸同士を交互に絡ませることで作られます。機織り機では、足でペダルを踏むと縦糸が上下し、その間に横糸を巻いた杼を通して糸が絡まって布が織られました。



# 働

## はたら 働く

現在では、電気や石油で機械を動かし、農作業を行うことが多いですが、昔は工夫をこらした道具や機械を人力で動かして行っていました。また、大きな力が必要な仕事は、牛や馬の力も利用しました。つくばには沼や川も多くあったため、魚などを獲って食べたりもしました。



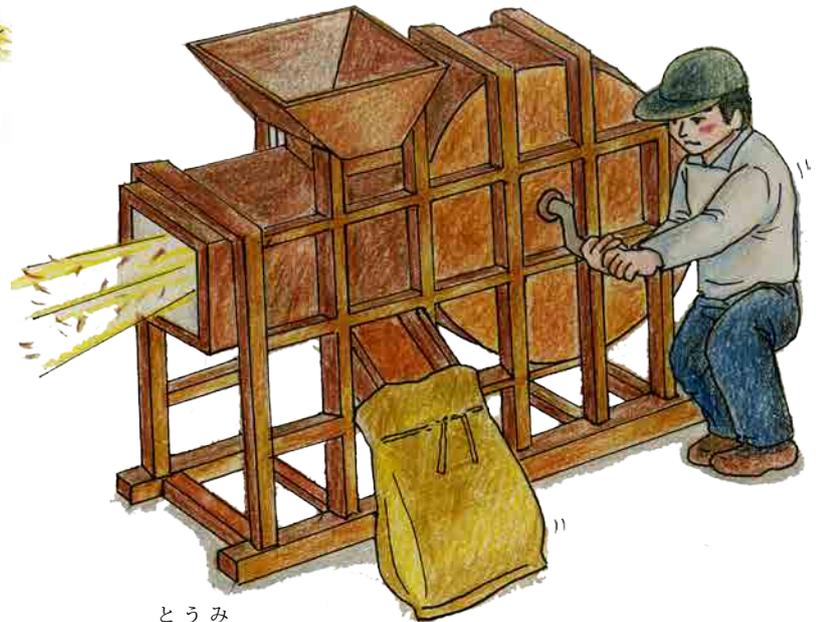
ふみぐるま  
踏車

田んぼに水を入れるための道具です。羽の上に人が乗り、体重の重みで羽を回転させ、用水路などから田んぼへ、水をくみ上げました。



せんばこぎ  
千齒扱

収穫した稲から籾をそぎ落とす道具です。歯のたくさん付いた部分に稲穂をひっかけて、籾を落としました。



どうみ  
唐箕

お米と籾殻を分ける道具です。籾を天日干しした後、「土摺白」という道具を使い、籾から皮の部分の籾殻をはずしましたが、その時に籾殻とお米が混ざってしまいます。そこで、唐箕の中に籾殻とお米を入れ、ハンドルを回すと、風力で軽い籾殻だけが吹き飛ばされ、お米と籾殻を分けることができました。



魚籠

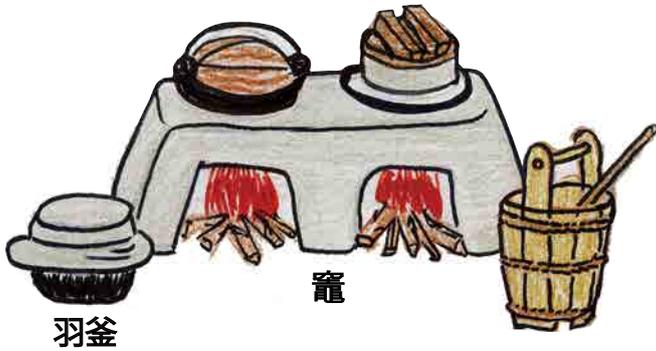
うけ 筥 (たる) ・ びく 魚籠

魚捕りの道具です。筥は、水中に仕掛けるワナで、中に入った魚が逃げないように、内側に返しがついています。捕まえた魚は、魚籠に入れて運びました。



## 食べる

電気やガスがあまり使われていなかったころ、食事はかまど 竈やいろり 囲炉裏でつくられていました。昔は水道もなかったため、井戸から水をくみ、甕いど という容器かめ にためていました。また、食事をする時は、膳ぜんの上に自分の食器をのせて食べていました。



### 竈・羽釜

竈かまどは、火をたいて料理りょうりをする所で、鍋なべや羽釜はがまなどを使いごはんをつくりました。羽釜はがまは、火でお米を炊くための道具で、電気すいはんきの炊飯器いぜんが利用される以前に使われたものです。羽釜はがまのまわりには、うすくでっぱったつばがついており、この部分が羽たに例えられ、羽釜はがまと呼ばれます。羽釜はがまは、熱ねつを逃がさずにお米を炊くことができました。

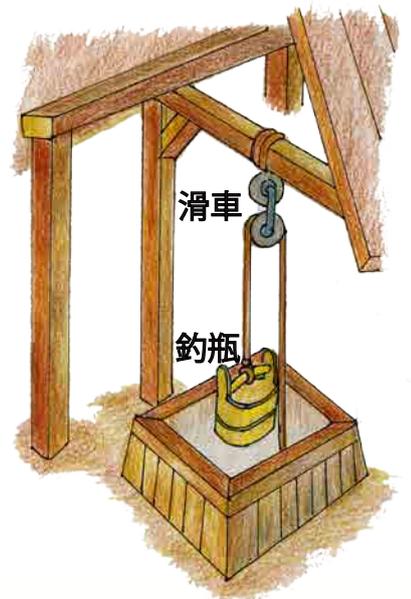
### 膳

ごはんを食べるための道具です。ごはんを食べるときは、ひとりひとりが、茶碗ちやわん・汁椀しるわん・湯飲みはし・箸はし・皿ぜんなどを膳ぜんにのせて食べました。左絵の膳ぜんは主に行事の時や客用として使われたもので、普段は箱膳ふだんという木箱はこぜんのような膳ぜんを使いました。



### 車井戸

水をくむための道具です。釣瓶つるべという桶おけを使って、水をくみ上げました。滑車かつしゃを利用することで、小さな力でも水をくみ上げることができました。



### びんぼうとっくり 貧乏徳利

お酒やしょうゆの容器ようきです。現在では、ペットボトルやビンなどの容器ようきに入ったものを買いますが、昔はお店が貸し出している徳利かだを持って行き、中身を入れてもらい、お酒やしょうゆを買っていました。



# 暮

## 暮らす

現在の暮らしでは、スイッチ1つで当たり前のように行えることも、昔は電気があまり使われていなかったため、手作業だったり、炭や油の力を利用したりしていました。



### 洗濯板

衣服の洗濯をするための道具です。洗濯機がない時代は、手洗いをしていました。洗濯物に石けんをつけ、板の溝の上で洗濯物をこすり、汚れを落とします。

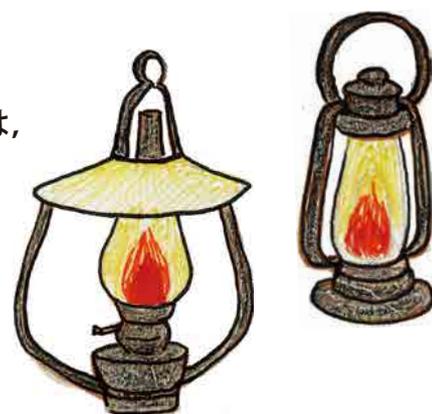


### 火のし・炭火アイロン

衣服などのしわを伸ばすための道具です。火のしは、器の部分に炭を入れ、熱と火のしの重さを利用して着物のしわを伸ばすものです。また炭火アイロンを見ると、形は現在のアイロンと似ていますが、火のしと同じく中に炭を入れ、熱とその重さで衣服のしわを伸ばしていました。火のし→炭火アイロン→電気アイロンと比べてみると、道具の移り変わりがよくわかります。

### ランプ

あかりをともし道具です。電気があまり使われていなかったころは、ランプに油を入れ、火をつけることで、あかりをともししていました。



### 蓄音機

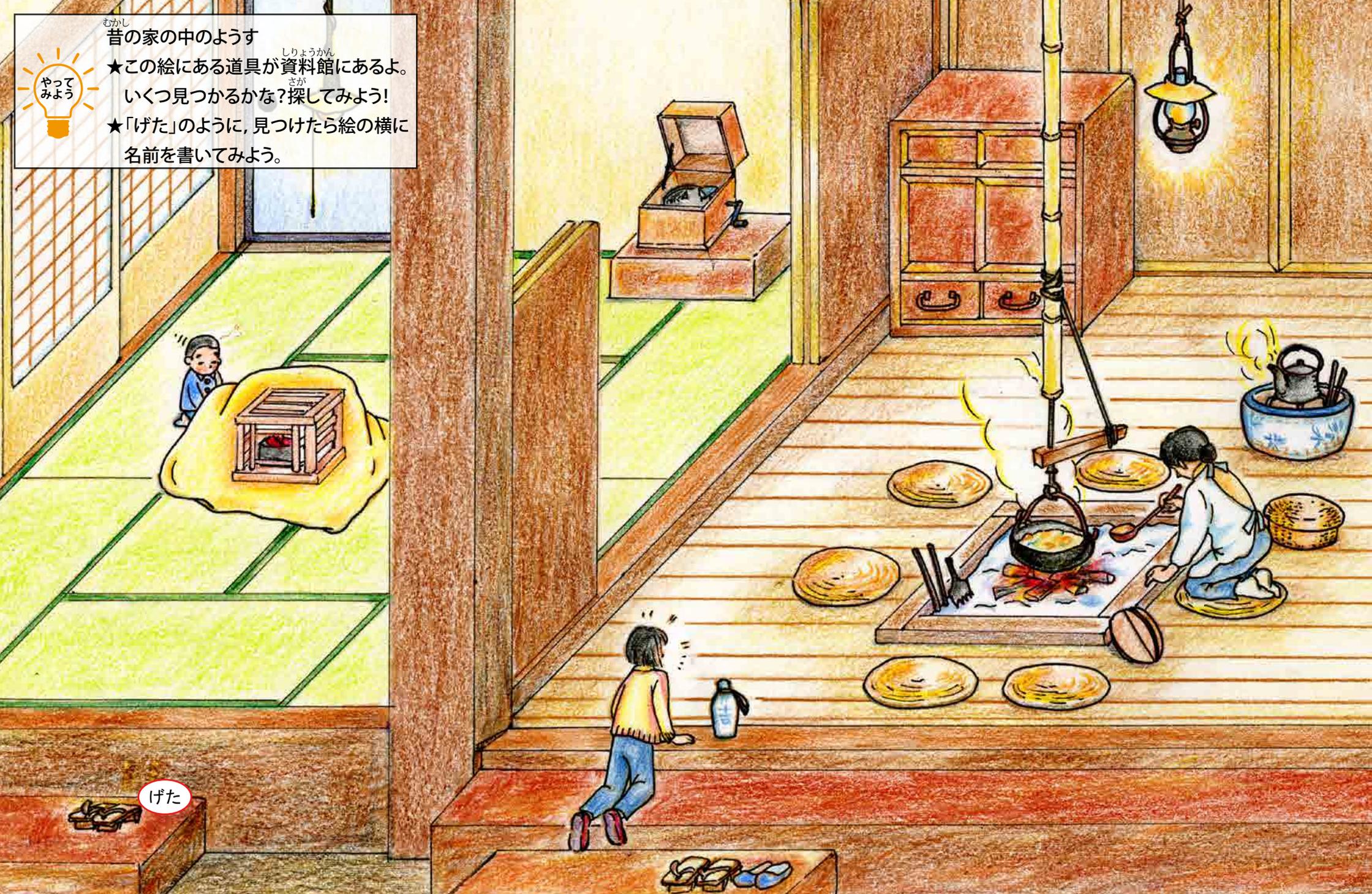
音楽を聞くための道具です。現在は、デジタルオーディオプレーヤーで音楽を聞くことが多いですが、昔はレコードと呼ばれる円形のプラスチック盤に溝を刻み込むことで、音楽を録音していました。蓄音機はレコードを回し、その溝を針でなぞることで、録音してある音を再生することができました。





むかし  
昔の家の中のように

- ★この絵にある道具が資料館にあるよ。  
しりょうかん
- いくつか  
いくつ見つかるかな?探してみよう!
- ★「げた」のように、見つけたら絵の横に  
名前を書いてみよう。



げた



**つくば市桜歴史民俗資料館**  
 〒305-0008 つくば市流星台 61 番地 1  
 TEL 029-857-6409



**つくば市谷田部郷土資料館**  
 〒305-0861 つくば市谷田部 4774 番地 18  
 谷田部交流センター 3 階



**つくば市教育局文化財課**  
 〒305-8555 つくば市研究学園一丁目 1 番地 1  
 TEL 029-883-1111